

Feminist Diary

Feminist Diaryは、日々の予定管理や振り返りをしながら、見過ごされがちなマイノリティの歴史や声に出会える手帳です。

私たちは、歴史の多くが特権層に都合よく語られ、資本主義によって再解釈・利用されてきたことに疑問を持っています。

SNSで日々発信される「今日は何の日か」という情報も、忙しい日常の中で埋もれがちです。Feminist Diaryは、「流される日々」と「見過ごされた歴史」を結び直す試みです。

手帳を開くことで、自分の1日と世界の誰かの声が交差するそんな瞬間を目指します。個人的な感情や予定を書きとめつつ、コラムを読むことで、自己と社会、個人と構造がつながる「日々の中のフェミニズム」を感じられることを祈っています。

ここで学ぶ歴史は、一部の特権層のためではなく、性別・性的指向・性自認、容姿、人種・民族・国籍・出身、身体的・精神的障害、経済状況・経済階級などのあらゆる差別に抗い、すべてのマイノリティの解放を願うものです。

1月 January

Sun	MON	TUE	WED

カレンダーの持つ政治性

日本社会では現在、グレゴリオ暦（太陽暦）を採用し、1月1日に新年を迎える。しかし、これは普遍なことではない。明治政府が近代化の一環として欧米諸国との制度統一を進め、1872年に太陰太陽暦からグレゴリオ暦へ改暦し、1873年1月1日から現在の暦を採用した。日本では西洋中心的な太陽暦を採用しつつ、家父長制の権化である天皇制に結びついた和暦も公的に使用されている。中国や韓国などでは公的にはグレゴリオ暦を用いながら、旧正月は太陰太陽暦に基づいて祝われている。

THU	FRI	SAT

ミャンマーやタイなどでは4月頃に伝統的な新年を迎え、イスラム教では宗教行事の日付にヒジュラ暦（イスラム暦）が用いられている。

世界を見渡せば、新年を迎える時期も、時間を数える方法もさまざまである。暦は決して中立ではなく、文化や宗教、国家権力とも深く結びついていることに批判的でありたい。

/01/01 ()

2024年：石川県能登半島地震

2024年の元日に石川県能登半島にて、M7.6、最大震度7の規模の地震があった。日本海沿岸で津波が襲来し、また奥能登地域を中心に土砂災害、火災、液状化現象、家屋の倒壊、交通網の寸断が発生し、甚大な被害をもたらした。死者は災害関連死を含め498名、住家被害は全壊6千棟以上を含む約11万棟、避難者は最大で約3万4,000人に上った。地震発生から8カ月余りしか経たない中で、2024年奥能登豪雨により再び大規模な被害が発生した。阪神淡路大震災、東日本大震災に続き、ジェンダーに配慮した対策ができていなかったことが指摘されている。また、現在も復興に向けて取り組みが行われている。

/01/02 ()

1997年：ナホトカ号重油流出事故

島根県隠岐島沖の日本海で重油を積んだロシア船籍タンカーナホトカ号に破断事故が発生し、船体は浸水した。31名の乗組員は救命ボートに避難したが船長は行方不明となり、後日船長とみられる遺体が越前海岸で発見された。同事故によって約5,000klと推定される重油が流失し、広範囲に拡散して海岸に漂着。地域の環境・漁業・観光等に大きな被害をもたらした。重油の回収や除去作業には警察や海上自衛隊に加え、県内外から多くのボランティアが駆け付け、長期にわたる復旧活動が行われた。ジェンダーの視点から見ると、重油除去作業のような力仕事だけでなく、炊き出し、物資管理、被災者支援など多様な役割が存在し、女性も復旧活動を支える重要な担い手となった。一方で、当時の報道では男性による現場作業が中心に取り上げられる傾向もみられ、災害対応における役割分担や可視化のあり方を考える契機ともなる。

2月 February

Sun	MON	TUE	WED

黒人歴史月間（Black History Month）

アメリカでは2月を「黒人歴史月間（Black History Month）」として、黒人の歴史や文化、功績を学ぶ月としている。黒人奴隷として生をうけ、後に奴隷制廃止論を主張したフレデリック・ダグラスとリンカーンの誕生日が共に2月であることにちなんでいる。奴隷制は廃止されたものの、人種差別は終わっていない。近年ではBlack Lives Matter運動が世界的に広がったが、黒人を標的とした殺害や暴力、不当逮捕、投票権をめぐる格差などの問題は現在も続いている。

THU	FRI	SAT

また、黒人の中でも女性、クィア、障害者など、複数の差別が重なることで、それぞれの経験が異なる場合がある。日本でも黒人差別は存在しており、黒人文化を楽しみながら差別には無関心である「文化の盗用」が問題となることや、レイシャル・プロファイリングの問題もある。なお、イギリスでは黒人歴史月間は10月に設けられている。

/02/01 ()

世界ヒジャーブデー

米国に住むイスラム教徒のナズマ・カーン（Nazma Khan）氏がオンライン上で提唱したことをきっかけに始まった記念日。ヒジャーブを着用しない非イスラム教徒や、普段は着用していないイスラム教徒にもヒジャーブを身につけてみてもらうことで、イスラム教やヒジャーブへの理解を深めることを目的としている。ヒジャーブは、「女性が抑圧されている」というように西洋的な視点から単純化され、差別的なイメージと結びつけられることもある。例えばフランスでは、公共空間における宗教的シンボルの着用を制限する法律が制定されたが、むしろこのような法律がヒジャーブを着用するイスラム女性の自己決定権が剥奪していると考えられる。

/02/02 ()

2026年：日本で緊急避妊薬OTC化

緊急避妊薬（アフターピル）は、長年、日本では医師の診察と処方箋がなければ入手できなかった。そのため、時間との勝負である薬にもかかわらず、休日や夜間には受診が難しく、必要な人がすぐにアクセスできない状況が続いていた。この日から、医師の処方箋がなくても薬局で緊急避妊薬を購入できることになった。これをOTC化と言う。

市民団体や医療従事者が「望まない妊娠を防ぐためには、誰もが迅速に入手できる環境が必要だ」と長年訴え続けてきた。民間団体ではNPO法人ピルコンや#なんでないのなどが運動を率いてきた。その結果、緊急避妊薬のOTC化が実現し、薬局で購入できるようになったことは、リプロダクティブ・ヘルス／ライツの前進として大きな意味を持つ。一方で、価格や販売時間、薬局数、薬剤師の配置など、誰もが必要な時に確実に入手できる環境にはまだ課題も残されている。

3月 March

Sun	MON	TUE	WED

女性史月間

アメリカでは3月を「女性史月間（Women's History Month）」として、歴史の中で女性たちが果たしてきた役割や功績を学ぶ月としている。その始まりは1978年、カリフォルニア州で国際女性デーである3月8日を含む週に「女性史週間」が企画されたことにあり、1987年にはアメリカ連邦議会が3月を女性史月間と定めた。女性史月間が設けられた背景には、歴史が男性中心に記録され、女性の功績や経験が見過ごされてきたことがある。

THU	FRI	SAT

政治や科学、芸術、労働、家庭など、社会は数え切れない女性たちの働きによって支えられてきたにもかかわらず、その名前が歴史に残らなかった人がほとんどである。これまで語られてこなかった人々の声に耳を傾け、私たちが学んできた歴史にはどのような偏りがあったのか、改めて考えてみたい。

/03/01 ()

1919年：三・一独立運動

三・一独立運動は、1919年3月1日に朝鮮半島で起こった日本帝国の植民地支配に対する大規模な民衆蜂起である。この運動は、民族独立を求める政治的抵抗であると同時に、性別による抑圧からの解放を志向するフェミニズムの契機でもあった。当時の朝鮮は儒教的価値観に基づく男尊女卑の構造が強かったが、三・一独立運動においては、女子学生、農村女性、妓生など、様々な階層の女性が街頭に立ち、直接的な政治主体として運動した。ソウルで3月1日に起きた独立万歳の声は各地に波及し、地方では3月下旬から3月にかけて運動が盛り上がった。朝鮮全土で女子学生約1万人が参加し、日本軍に捕らえられ起訴された9411名のうち、587名が女子だった。代表的な人物として、柳寛順（ユ・グァンスン）氏が挙げられる。彼女は16歳で運動の先頭に立ち、逮捕・拷問を受けながらも抵抗を続けた。彼女の行動は、韓国のジャンヌ・ダルクと称されるほど象徴的な存在である。

/03/02 ()

1955年：クロードット・コルヴィン（Claudette Colvin）氏不当逮捕

アメリカのアラバマ州モンゴメリーで、当時15歳だったコルヴィン氏は、学校から家に帰るバスで白人女性に席を譲ることを拒否し、逮捕された。これは、公民権運動の主導者として著名なローザ・パークス（Rosa Parks）氏が人種隔離バス内で抗議を行う9か月前の出来事だった。

翌1956年、コルヴィンはバスの人種隔離に異議を唱えた裁判「ブラウダー対グレイ（Browder v. Gayle）」の4人の原告の一人となった。この裁判をきっかけに、バスの人種隔離は違憲と判断された。

しかし、彼女は長い間、その功績が広く知られることはなかった。公民権運動の指導者たちは、審理中に未婚で妊娠していた彼女を運動の象徴にすることは難しいと判断し、その功績は覆い隠されてしまったのである。しかし近年では、公民権運動を支えた重要な活動家の一人として、その功績が改めて評価されている。